

マイナー・プログラム一覧

2024 (令和6) 年度

こんな人におすすめ!

学問分野の枠にとらわれずに、自分の興味・関心に沿って学びたい!

学修創生型マイナー

マイナーとして学びたい分野やテーマが決まっている!

パッケージ型マイナー

NICEプログラムは、視野を広げたい人、何をやりたいか迷っている人、とにかく何かに挑戦したい人、なんとなく自信が持てない人など、すべての学生に開かれたプログラムです。
少しでもマイナーに興味のある人は、お気軽に「学修デザイン相談」までお越しください!

学修創生型マイナー (自己選択方式・14単位以上)
「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」各1単位を含む

○学修創生

パッケージ型マイナー (12単位以上)

【人文・社会科学分野】

- 心理・人間学
- 社会文化学
- 言語文化学
- 法学
- 政治学
- 経済学
- ビジネスアントレプレナーシップ
- ドイツ語
- ドイツ語<発展>
- 英語
- フランス語
- フランス語<発展>
- 韓国語
- ロシア語
- ロシア語<発展>
- 中国語
- 中国語<発展>

【自然科学分野】

- 数学
- 物理学
- 化学
- 生物学
- 自然環境科学
- 機械システム工学
- 社会基盤工学
- 電子情報通信
- 知能情報システム
- 化学システム工学
- 材料科学
- 建築学
- 生物資源科学・流域環境学
- 応用生命科学・食品科学

【保健学分野】

- ヘルス・マネジメント

【学際分野】

- アグロ・フードアソシエーツ
- ことづくり・マネジメント
- コミュニティ・マネジメント
- データサイエンスリテラシー
- ジオパーク
- 地域災害環境システム
- ふるさと共創学
- MOT基礎
- 農学から始めるDXとGX
- GIS(地理情報システム)
- 医学物理学基礎
- 医学物理学基礎<発展>
- 核エネルギー・災害科学

※上に記載の内容は変更になることがあります。

※各マイナー・プログラムの科目リストは二次元バーコードにアクセスして「マイナー・プログラム一覧」のページをご確認ください。

(問い合わせ先)

新潟大学 教育基盤機構
全学分野横断創生プログラム(NICEプログラム)

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地
TEL.025-262-6309 FAX.025-262-6991
E-Mail kyoumu-minor@ge.niigata-u.ac.jp

NICEプログラムについて、
くわしくはこちらをご覧ください。
<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/>



リサイクル適性 A

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

発行日：令和6年4月発行



(Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program)

新潟大学には、総合大学としての豊富な教育資源があります。

学生の皆さんが、学部の枠を越えて複数の分野を横断して学ぶことのできるしくみが、全学分野横断創生プログラム、通称「NICEプログラム」です。

「NICEプログラム」には、大きく2種類のマイナーがあります。

学生の皆さんが自分の興味・関心や問題意識に沿ったマイナーの学修を進められるようマイナー支援科目「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」の開設や、アカデミック・アドバイザーによる学修デザイン相談など、充実したサポート体制が整えられています。



真の強さを学ぶ。

新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY

新潟大学では、確かな専門の学びと幅広い学びを実現するメジャー・マイナー制を導入しています。「NICEプログラム」は、学生の皆さんのマイナーの学修を応援する教育プログラムです。

メジャー・マイナー制とは？

メジャー
 入学した学部で学ぶ専門分野のことです。2年次から本格的にスタートします。
 (学位プログラムの決定時期は、学部によって異なります。)

マイナー
 メジャー以外の専門分野のことです。新潟大学では40を超える多様なマイナー・プログラムを提供しています。

総合大学の豊富な教育資源を活かし、学生一人一人が学びをデザインする

新潟大学のメジャー・マイナー制の特徴

従来の学部の枠にとらわれない、複数の専門領域を横断して学ぶことができます。

ポイント1

学部で学ぶメジャーをベースに、幅広い分野をマイナーとして学ぶことができます。



ポイント2

学生一人一人の問題意識に沿った分野横断型の学修を自身でデザインできます。



ポイント3

学生の皆さんが総合的、複合的な学びから自ら課題を発見し、解決方法を見つけ出す力を身につけることができます。



社会的課題に複眼的視野によりアプローチできる人材の育成
 メジャーとマイナーを柔軟に組み合わせた学修

マイナーの学修の4年間の流れ (学修創生型マイナーの場合)



マイナーの学修のサポート体制

■ マイナー支援科目「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」

「分野横断デザイン」はNICEプログラムの「導入科目」です。この授業では自分の興味・関心を起点に探究課題を見つけ、マイナーの学修の計画を立てます。「分野横断リフレクション」は「集大成科目」です。マイナーの学修の達成点を明らかにし、メジャーと関連させて、新潟大学での自らの学びを整理します。両授業とも、学生同士のグループ学習による学びを重視しています。

■ アカデミック・アドバイザーによる「学修デザイン相談」

NICEプログラムには、専任の教員がアカデミック・アドバイザーとして在籍しています。アカデミック・アドバイザーは、マイナー支援科目「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」を担当するほか、「学修デザイン相談」で、学生の皆さんがもっている興味・関心や問題意識をマイナーの学修につなげていくサポートをします。「学修デザイン相談」は、授業期間中に開設されています。マイナーの学修について迷ったとき、マイナーの学修中にわからないことがあったときなど、いつでも相談できます。また、対面だけでなく、メールでも相談を受け付けています。

学修デザイン相談
 相談日: **火・木・金曜日**
(休業期間を除く)
(昼休み、11:55~12:45、3、4限)

(学修相談受付)
 場所: **NICEプログラム室(学修相談室)A棟211**



NICEプログラムをはじめている人は？

(2022年度入学)
法学部 法学プログラム
パッケージ型マイナー「ふるさと共創学」

大学に入って最初に感じたのは「自由なんだ!」ということです。興味のあることを勉強できるし、自由に時間割を組むことができます。「やらされる」から、自分でするものへと学ぶことの印象が変わりました。

- Q. 「ふるさと共創学」はどんなマイナー・プログラムですか？**
A. 「ふるさと共創学」は、新潟大学のダブルホーム※をベースとするマイナー・プログラムです。地域課題の解決には、いろいろな分野からアプローチする必要があります。このプログラムには、各学部で開講されている講義形式の科目から実践的な科目まで、幅広い科目がパッケージ化されています。
- Q. ダブルホームについてもう少し聞かせてください。**
A. ダブルホームは、所属する学部を第一のホームととらえ、地域活動を通して、大学の外に第二のホームを創ろうという活動です。現在、新潟県内で16ホーム、山形県で2ホームの計18ホームが活動していて、わたしは新潟市中央区の万代地区で活動するNホームに所属しています。
※ダブルホーム: <https://www.iess.niigata-u.ac.jp/dh/>
- Q. 「ふるさと共創学」の履修やダブルホーム活動から得られたものはありますか？**
A. 同じ志を持った仲間に出会えたことです。わたし自身、小学生のころから地域活動を続けてきて、活動していないと「消化不良」という感じが覚えていましたが、ダブルホームでは、そんな自分よりすごい人に出会えます。2021年から活動の始まったNホームには、新しいことに取り組む余地がまだまだあります。仲間とは「いつか自分たちの企画もやりたいね」と話しているところです。

(2022年度入学)
工学部 人間支援感性科学プログラム
学修創生型マイナー
「医工学で世界の医療課題を解決するための国際理解力と技術者倫理」

いろいろな背景を持つ人が集まって、一緒に考えることが大学でのグループワークのおもしろさだと思います。自分の意見や工学部での学びを共有することは、他学部の参加者にとっては新しい視点になるのだと知りました。

- Q. マイナー・プログラム履修を始めたきっかけは何ですか？**
A. 大学入学前からグローバルな医療格差の解消に携わりたいという将来像を描いていました。そこで工学部の融合領域分野を選びましたが、ここで学ぶだけでは自分の将来像に手が届かないことにも気づいていました。NICEプログラムのことは、工学部の新入生ガイダンスで知りました。マイナーで工学部の専門分野以外の分野を体系的に学ぶことができるなら、自分が進むべき方向を記した「地図」を作ることができるのではないかと考えたので、「分野横断デザイン」を履修するところからスタートしました。
- Q. 「メジャー×マイナー」を実感した経験について教えてください。**
A. マーケティングワークショップでタイのチュラロンコン大学の学生とチームを組んだオンラインG-DORM※での経験です。ワークショップの課題は、県内企業の製品をタイで販売する場合、どんな改良を行い、どんな売り方をすればよいかというものでした。マーケットはタイなので、現地のニーズについてチュラロンコン大の学生に教えてもらうことになります。しかし、身近なことほどニーズに気づきにくいという側面もあり、こちらから質問を投げかけてニーズを掘り起こすことが重要だと思いました。このときマイナーで身につけた世界情勢や経済事情の知識が、質問の幅を広げることに役立ちました。
※新潟大学工学部 地域共同によるグローバルドミトリ(G-DORM)プログラム <https://www.eng.niigata-u.ac.jp/~g-dorm/index.html>